

連載へまつやま 人・彩時記⑤
郷土の歴史を語りつぎながら
和気の教育に一生を捧げた人

柳原繁太郎

元松山市立素鷲小学校校長
伊予史談会会員
上岡 治郎



報恩碑に彫られた先生の歌

一、はじめに

和気といえは、まず太山寺・円明寺の霊場と、「二体走り」で有名な勝岡八幡神社が挙げられる。

ところで、その中で最も有名な五十二番札所の太山寺にほど近い所に片廻(かたまわり)という地名がある。

そして、太山寺川と県道が交差した所に片廻バス停があり、このバス停を南に曲がり、片廻公民館の前を通って太山寺保育園の横の坂道を十メートルほど上った民家の庭に、大きな碑が建っている。

この民家(鶴久森澄雄氏)の場所が、これから紹介する柳原繁太郎先生の旧宅跡であり、この石碑が柳原先生の報恩碑であって、正面には先生の生い立ちと数々の業績が刻まれ、裏面には先生自作の

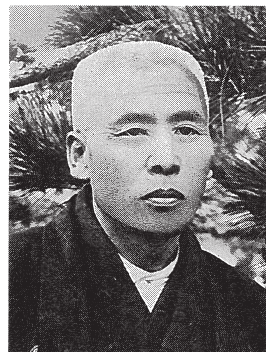
歌が彫られている。

むらぎとの開けゆく本たづねれば

さきの世からの人のたまもの

湖巖(先生の号)

二、先生の生い立ち



柳原繁太郎先生

柳原繁太郎先生は、明治元年から数えて九年前の安政六年(一八五九)九月二十五日、伊予郡松前町鶴吉に西村喜八氏の三男として生まれる。そして、幼少時に和気太山寺の柳原文龍氏に預けられ、のち柳原家の養子となる。

ところで「維新前寺子屋、手習師匠等調査」によれば、和気地区は左表のようになっている。

所在地	師匠氏名	身分	生徒数	入学退学年令
片岡	柳原 安義	神官	30名	7才~10才
太山寺	柳原 文龍	医師	"	"
本村	村上 弁次郎	書主の記	"	"

そして、創始及び廃止年月日は不明となっているが、養父文龍氏は医師として、また寺子屋の師匠として、明治以後も活躍したと考えられる。(文龍氏は明治十六年没)

また繁太郎先生は、幼少の頃からこの養父について漢籍・書道を学び、長じてからは歴史・文学・美術・教育の研究を深めている。

なお、若い頃に東京・大阪・九州・台湾に働きに行き、人生経験を積んだということでもある。

そして教職に就いてからは、三十余年の殆どを和気の教育に尽くし、退職後も学務委員となって和気の先人の研究や、社会改善、産業の発展に貢献したのである。

三、柳原先生の免許状

最初に紹介した報恩碑の文面に「夙ニ育英ノ志有り、明治十七年愛媛県太山学校ノ教師ト為ル」とあり、柳原繁太郎先生が、明治十七年に二十六歳で太山寺村の学校教師になったことがわかる。

ところでその翌年の明治十八年には、太政官制に代えて内閣制度が発足し、小学校令公布により小規模校を統合して新しい尋常小学校を作ることになる。

そして和気では、鶴間・太山・柳泉の三校を統合して円明寺の横に和気尋常小学校を作ることになったが、太山寺村は学校の場所



柳原先生が趣味で描かれた絵

年	事
明治7年	和気浜村に鶴間学校
"	太山寺村に太山学校
同 15年	馬木村に柳泉学校
同 19年	小学校令公布により、三校合併して和気尋常小学校(場所は円明寺の横)
同 20年	太山寺村は学校の場所にならない
同 23年	市制・町村制公布により、三村合併して「和気郡和気村」誕生
同 25年	太山寺分校独立して太山寺尋常小学校
同 28年	和気尋常小学校新築
同 30年	温泉郡和気村となる。
同 33年	義務教育年限を4年間とし完全実施
同 34年	鴨川高等小学校開校
同 35年	太山寺尋常小学校新築
同 36年	国定教科書令公布、全国共通の教科書となる。
同 40年	和気浜・太山寺二校の合併を村議会で決議
同 41年	義務教育の年限が6年間に延長された記念すべき日に、和気尋常小学校現在地に移転開校
大正4年	高等科を合併し、和気尋常高等小学校となる。
昭和2年	「和気駅」開設
同 15年	松山市に合併、松山市立和気尋常高等小学校

(通学距離)の問題で不満を持ち、入学した二名の子供も退校させるなどして県と郡の係官の説得にも応じなかったため、明治二十年に太山寺分校としてやっと認可。

また市制・町村制公布の時も、前の学校問題のしこりが残り、新村名の決定に難行。三村の最初の字を合わせて「馬和太村」にしてはとの意見も出、結局郡名にちなんで和気浜の浜一字を削除し、和気村と称することになった。

このように混乱している明治十年代の村と学校にあって、柳原先生にも教員資格問題が起こった。

それは、明治十九年六月二十一日に「小学校教員免許規則」が制定され、検定試験で免許状を取得しなければ教員になれないことになったのである。そして先生は、十年かけて次の四種の免許状を得たのである。

- ① 明治20年9月1日付の免許状
尋常小学校授業者 (29歳)
 - ② 明治21年8月1日付の免許状
小学簡易科教員 (30歳)
 - ③ 明治24年1月1日付の仮免許状
尋常小学校教員 (33歳)
 - ④ 明治30年4月6日付の免許状
尋常小学校本科正教員 (39歳)
- この免許状は、柳原先生のご親戚に当たる太山寺町の二神伴之丞さんのお宅に大切に保存されている。



経田下の太山寺尋常小学校
立っている人の左から9人目が
柳原繁太郎先生

る。そして私は、これを見せてもらいながら、柳原先生が新しい免許状を取得されることに、太山寺分校時代、太山寺尋常小学校時代と教育の内容も深まりを見せ、二十有余年に渡って太山寺の教育に全力投球をされた先生のお気持ち

四、門屋音五郎校長と共に

柳原先生が古三津に半年、三津に一年勤めて、和気浜と太山寺が現在地に統合された新しい和気尋常小学校に転任したのは明治四十四年四月で、児童数も増え、産みの苦しみの時代でもあった。

そんな時、大正二年九月二十七日付で門屋音五郎校長和気に着任。そして柳原先生は、この日からご自分の退職するまでの三年半を門屋校長と肝胆相照らし、全職員とも一丸となって、更に大正四年四月より高等科を併設、新しい和気尋常高等小学校となった和気の教育に挺身されたのである。

特に新しいものとしては、

- ① 勝岡八幡神社社頭での朝日会
 - ② 校訓唱歌 (大正三年作詞)
 - ③ 和気村統計歌 (大正五年作詞)
- などがあり、今もなお人びとに懐かしがられている。

そして、大正六年三月末に柳原繁太郎先生のご退職になられた時門屋音五郎校長は、次の文章を和気小学校に書き遺している。

「：(※柳原繁太郎先生ノ) 退校ノ発表アルヤ 村ハ直チニ村会ヲ召集シテ慰勞金ヲ議決セリ。

居村大字「太山寺」ハ先ニ教エヲ受ケシ村民 直ニ集合シ恩謝金ヲ募集セシガ 忽チニシテ発起者ノ予定額ニ達セリ。

青年会ハ記念品ヲ扱フ等 清キ溢ルル芳情ハ 他所目ニモ十分ウカガハルモノアリキ。

ソノ感謝表彰ノ式ヲ氏神社ニ挙ゲシトキノ如キ、二十年前ニ教エラレシ弟子ハ、ハルハ東都ヨリ祝電アリ。今チャキクノ法学士、弁護士ニシテ猶此ノ行為アリ。……十年カハラザルコノ至誠コソ即チコノ美果ヲ生ジシナリ。

学校ガ円満ニ行キシモ、村内静カナリシモ、君ニ負フ所又実ニ大ナリト云ハザル可カラズ。実ニ偉大ナル君、君ハ実ニ偉大ナル士也」

(心情あふるる文章は更に続くが省略。門屋校長の記念碑「至誠」も卒業生の手で和気小学校庭に建てられている。)

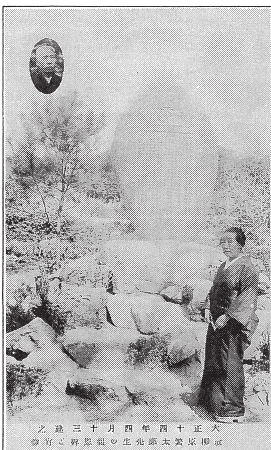
五、報恩碑のこと

柳原先生は、学校退職後は、郷土の偉人「武内霞山」の研究に心血を注がれ、その業績を発表された翌年の大正十三年四月二十四日午前三時に急逝。(享年六十六歳)

そして、この訃報を知った数千人の教え子を中心にして、先生の師恩に報いんと立ち上がり、報恩碑の建立を企画したのである。

発起人総代は、渡部常次郎氏と二神筆吉氏。碑文の原稿は東京の藤野静輝先生にお願いすることとし、鶴久森熊太郎氏と須之内品吉氏が使者となる。

そして左のような「建碑記念絵はがき」を印刷配布し、除幕式は柳原先生の亡くなられた丁度一年後の大正十四年四月二十四日に、盛大に挙行されたのである。



大正十四年四月三十日
柳原繁太郎先生夫人雪鳴内

ところで、柳原繁太郎先生の報恩碑建立の義挙を知った内藤鳴雪先生は、東京からはるばる次の俳句を贈って来られたのである。

幾千代を 君の名高く 碑も高し (鳴雪)